

公益社団法人いわき青年会議所 2019年度 理事長総括

2019年度基本方針に沿って総括する。

【意識変革による人財育成】

近年のJCに対する会員の意識は私が入会した2013年から比べて圧倒的に低くなっていると感じます。個人によって生活環境や価値観が違うのは当然であり、この組織に入会する経緯や目的も様々なのはまた然りです。また、入会しても、自分の人生という貴重な時間の中でどれほどの時間をこのJC活動に費やせるのか。そこに強制力はなく、自己判断とするしかないのでしょうか。しかし、JCに入会するメリットを得るには、やはり少しでも己に鞭を打ち、甘さを減らし、これまでと違う環境を創り出す覚悟を持たなければどの組織でどのような動きをしても己の成長には繋がらない、要は「無駄」になってしまうと私は考えます。

そうならないためにも、自分自身が人間の持つ無限の可能性を掴みにいかなければなりません。まずはその成長の機会に飛び込むことが重要であると思います。

しかし、本年は様々な成長の機会を、会員に対し速やかに明確に発信、提供することは出来ていなかったと感じております。もっと早く提供できていればその人の大きな分岐点になっていたかもしれない機会があったと考えれば、大きな反省点でした。

また、本年はいわきJC発足より15周年を迎えた年でした。5年前の10周年からこの5年間で様々な変化しているこの時代に対して、これまでこのいわきJCを紡いで来られた先輩方に対し最大限の感謝を伝えると共に、今をしっかりと理解し、今後の5年、10年を見据えたビジョンを明確に発信できる機会を頂きました。しかし、近年の会員の在籍年数は短く、節目から節目へと在籍できる機会も得られない状況になっております。

人口減少が叫ばれる中ではありますが、これからのいわきを担っていく若者との意識共有を図り、より強い組織へと変革させていかなければなりません。

どこで誰がどのような変化をするかは分かりません。次年度以降は機会の提供に対し敏感に、そして明確に提供をしていただきたいと思います。

【特長あるまちづくり】

これまで先輩方が創り、さらには年々大きく魅力的にしてきた「フラ文化」をさらに推し進めるために、他団体や行政と連携しフラの魅力発信に繋がる公益事業を展開しました。これまでの市内外発信に加え、今年は国際的な交流も図れる機会として様々な計画、実施をしました。結果、まだまだ市民の意識定着は少なく、計画通りの参加は達成できませんでした。しかし、内容が至っていないというわけではなく、「フラ」そのものの価値や魅力を最大限に活用できていないように感じました。さらには、発信する側である我々も「フ

ラ文化」に対する意識が低いように感じました。今後は「フラ」の持つ可能性を今一度見直し更なる調査研究に加えさらなる価値と魅力を創出できるアイデアを生み出し活発に運動を展開させていかなければならないと考えます。

また、いわきの魅力の一つとしてスポーツを活用した市民参加型の事業を計画しました。しかし、憎き台風による災害によっていわき市は甚大な被害を受け、事業を中止にせざるを得ませんでした。

しかし、いわきの魅力の一つがスポーツを使える地理であることや魅力的な資源があるという、ここに着眼したことは会としても大きな一歩となると考えます。

次年度以降、このいわきの魅力をどのように地域活性化に繋げていくか期待が持てます。

【子どもに魅せる大人の背中】

どの国もどの地域も、首都も地方も、全てにおける未来を切り開き創っていくのは今を生きる子供たちであるのは間違いありません。その子供達が未来に期待をしながらワクワク感を持って成長していくために、主権者意識を醸成出来る事業を実施しました。

主権者意識とは自分の住み暮らす地域を良くするのも悪くするのも全ては自分の判断、言動が反映されていくという現実的な認識と、人としての道徳観や倫理観をもつことが重要であると考えております。結果は参加人数が少なく多くの子供達に意識醸成、もしくは変革を起こすことは叶わなかったと実感しております。しかし、内容としてはとても素晴らしく、参加してくれた子供だけではなく教師たち大人の視点からもとても重要な内容を構築できたものと考えております。今後は対象者の参加促進をしっかりと行っていく必要があります。また、未来を切り開くための生き抜く力を身に付けるために公益事業を計画しました。しかし憎き台風による災害により中止せざるを得ない状況になってしまいました。今後もこの生き抜く力という視点は持ち続け、その時代に即した手法をもって意識の醸成を行っていく必要があると考えます。

【キャパシティの拡張】

我々が今まで、そしてこれからも明るい豊かないわきを創造するために運動を展開し続けるには、いわき市といわき J C の持つポテンシャルを見極め、魅力的な資源や人財によって市外へ広く発信していく必要があります。

本年いわき J C は県内の J C が一堂に会す福島ブロック大会を主管させて頂く機会を頂きました。この機会を好機とし、魅力の発信だけではなく、食を通じた新たな魅力を創出し多くの市民に周知する事が出来ました。この経験をいわき J C の発展につなげていかなければなりません。このような機会をさらに誘致出来る組織力を身に付け、他 L O M との繋がりをより強固なものとしていかなければなりません。

【結びに】

我々 J C が一年で出来る事は知っているのかもしれませんが。しかし我々は常に高い目標を立て、地域を牽引するにリーダーになるべく修練を重ねています。その時間や神経をす

り減らしながら、それを仲間が補い支え合うところに真の友情が芽生え多くの市民を巻き込んだまちづくり運動が展開できます。しかしJCに入会すれば全員がその意識になるわけではありません。多様な価値観を持ち合わせた集合体ではあってもJCの原理原則を理解する意識、己を律し自己成長に努力する覚悟を持たなければ、そこには何も生まれない惰性の時間が流れるだけです。

スローガンに掲げた「局面打開」～あらゆる機会に価値を見出せ～とは、その局面がどのような状況なのかを見極めることがとても重要です。局面も様々で、住み暮らす地域の現状だけではなく、自分の置かれている状況、家庭状況、職場状況、そんな様々な状況を速やかに正確に把握する力を持たなければなりません。そしてそこにある問題や課題に対し打開策を打ち出していかなければなりません。打開策とは、現状維持ではなく少しでも良くなるように解決させるという事です。ここに必要になるのが未来を予測するためのイメージネーションが出来るかです。自分だけではなく、周りの人や地域に良い影響を与えられるようになるには、未来を想像し、そこに行きつくための必要行動を取る事が大事なのです。そのためには、自分の価値観を広く深くしなければなりません。

価値観とは己の経験によってしか育まれないものであれば、我々は否応なく経験値を高める「機会」を見逃してはいけません。

本年は例年よりも多くの価値ある機会をいただいております。その一つひとつに対してどのくらい参画動員を図れたのか。

臍貞目に見ても正しい機会の提供は出来ていなかったと考えております。

会員の成長の機会に繋がる機会の提供が正しく出来ていなければ一年間の全てが狂ってしまうことになりかねない大きな過ちであると考えております。

ここに対し私は会の長として深く反省しなければなりません。幸い、会員の皆さんは自己判断で多くの機会に参画していただき、個人の成長をもって年当初よりもより強固な組織となったと確信しております。

本年至らなかった部分は多々ありますが、自分自身が深く反省すると共に、少しでも成長出来た部分を次年度に繋げられるように検証や引継ぎを真摯に行ってまいります。

これからも全会員が、あらゆる機会に飛び込みそこにある多種多様な価値を感じ取り自身の成長に繋げられることを切に願い一年間の総括とさせていただきます。